【特集】

男女共同参画の視点に立った防災

～日頃から「もしも」に備える～

東日本大震災から10年。その後も日本各地で地震や台風、大雨など災害が相次いでいるほか、新型コロナウイルスの感染拡大もみられます。いつ、どこで大規模災害が発生してもおかしくない時代。「もしも」に備えて何から始めればいいのか、地域にどう関わればいいのか、自分たちにできることから始めた方々の事例を紹介します。

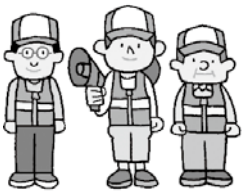
写真：平成30年度から県内6地域で開催した女性の防災力向上ワークショップの様子

青森県の取組「女性の参画による防災力向上事業」

東日本大震災や過去の災害では、長期化する避難所生活でのプライバシーや衛生上の問題など、女性が災害弱者になる事態が発生しました。このことを受けて、青森県では、日頃から実生活に根差した知識や能力を持っている女性の「暮らしの視点」を活かした防災対策の実践と浸透を目的とし、女性の参画による防災力向上を図る取組を実施しました。平成30年度から県内6か所で、日頃から備えておきたい防災知識や、安心して過ごせる避難所づくりのワークショップなどが開催され、約170名の女性が受講しました。

受講した女性たちは、「非常用持ち出し品や備蓄品をそろえた」「配付資料を町内会で活用した」「広報チラシを作って回覧した」「町内会や自主防災組織に参画する」など、学んだことを積極的に行動に変えていきました。

「もしも」に備えて地域とつながろう



日頃からの備えや、地域の自主防災活動（組織）と協働することが大事だと学び、実践するようになった受講生の皆さん。

一人でも多くの人が、災害の危険性や避難所運営に必要なことを日頃から確認し、いざという時にどう行動するか考えておくことが減災（被害の軽減）につながります。

「今の自分に何ができるだろう」と考え、それぞれの地域にあった形での活動や自分にできることをはじめていった方々の事例を紹介します。

防災に男女共同参画の視点が必要な理由

地域に暮らす人々は、高齢者・障がい者・妊産婦・乳幼児のいる家庭、病気を抱えている人、外国人、性的少数者など多様です。災害時には多様な人々の「違い」に配慮した支援が必要です。

過去の大規模災害で避難所生活をした人の声

- ○着替えや授乳をする場所がなく、毛布の中でするしかなかった。
- ○自分も友だちも生理用品がないことに困った。トイレットペーパーを使うしかなかった。
- ○避難所で、夜になると男の人が毛布の中に入ってくる。周りの女性も見て見ぬふりをして助けてくれない。
- ○赤ちゃんの夜泣きで周りに迷惑をかけていることが気になり、避難所にいられなかった。
- ○異性の目が気になって下着などが干せなかった。

被災者を「同じ支援皆平等」と考えることは必要な支援を受けられない人をつくりだしてしまい、被害が拡大することにもなります。被災者一人ひとりが直面する問題は違い、そのことに細やかに対応していくことが、被害を小さく留めることにつながります。

そのためにも、女性をはじめ、様々な当事者やその支援者が地域の役員や責任者となる必要があります。

これからの防災～青森の女性の力～

女性の防災力向上ワークショップを受講後に実践している方々の取組をご紹介します。

岩本　ヤヨエさん（三沢市）

防災は全ての人に関わることで、自分事として考えてもらいやすく、男女共同参画社会を目指す活動としてとても大事だと思います。講座後に、受講生の皆さんと一緒に「三沢市避難所運営マニュアル」の作成に関わりました。女性メンバーの知識と経験、講座の学びを活かし、多様な人々の視点を取り入れた避難所運営などに意見を出し合いました。また、防災士の資格を取得し、小中学校で防災講座や避難所運営訓練などの講師も務めています。

日ごろから、薬、日用品、ガソリンなどは余裕をもって常備するようにしています。特に日用品は近隣に分けられるように、以前の数倍備えています。町内会の役員に、自分が防災の活動をしていることを伝えました。近所の高齢者のいる世帯を把握し、普段から声がけもしています。

一條　敦子さん（弘前市）

防災に関して、女性が主体的に行動できるようになりたいと考え、弘前市主催の防災マイスター養成講座を受講し、防災士の資格を取得しました。その後、実生活での防災や女性が活動できる防災を知りたいと思い、本事業に参加し、避難所での生活や運営など実践的なことを学びました。

受講後には、一緒に参加した弘前市消防団女性分団の方々と、市内で親子対象の防災講座を毎年開催しているほか、地区公民館や老人クラブなどからも依頼があり、防災のお話をしています。

普段の生活で心がけているのは、日用品や食料など常に使いながら補充していくローリングストックです。また、コロナ対策として、非常用持ち出しリュックにアルコール消毒液やマスク、手袋などを追加しました。

山内　裕子さん（五所川原市）

元々建築士として安全を考える仕事をしてきたので、防災に興味がありました。防災は公助のイメージが強かったのですが、避難所生活などは広範囲に考えなければならないことが多く、女性が経験してきた生活者の視点で見る必要性に気がつきました。

昨年4月に一緒に学んだ仲間3人とコープあおもり五所川原地域「くらしと防災」委員会を立ち上げました。会員と共にローリングストックに取り組んだり、ハザードマップを活用し避難所を確認したり、非常持ち出しリストの検証に取り組んでいます。災害に遭った時、「自分はどうしたいか」考え、行動できる人が一人でも多くなるように日頃から活動していきたいです。建築士としては、建物や住環境の災害対策について、多くの情報に振り回されないよう、専門家に迷わず相談してほしいと思っています。

齊藤　日出さん（五所川原市）

五所川原市女性消防団では、主に防火の啓発活動を行ってきました。本事業では、発災後の活動、避難所設営と運営などを学び、実動訓練では学んだことや日頃の活動を活かしながら、突然任命されたリーダーまで経験することができました。

消防団員として、地域の防災組織や行政と連携し、災害時に自分たちの役割を認識して、自ら行動できるように、月一回の定例会で防災講習の内容を団員に周知しています。避難所運営の際は、本来の消防団活動（炊き出し、応急手当など）を活かせるように、訓練を行っています。また、普段から災害時に活動できるよう準備をしているほか、地域の危険個所などを確認するようになりました。

東日本大震災以降、全国各地で女性対象の防災リーダー養成研修が行われるようになり、実際に地元地域で活動を開始する女性たちが増えてきました。それまでは、「自主防災組織の役員が男性ばかりで入り込めない」「女性の役割は炊事、救護でそれ以外は関われない」などの理由で、女性たちの力を十分に活かせないことがありました。今後大事なことは、活動を始めた、または始めたいと思う女性たちと町内会や自主防災組織等がつながり、地域の防災活動でそれぞれの知識や経験を活かして力を発揮し、活躍していけるようになることです。災害時には様々な世代や立場の人の参画と協力が大切になるので、地域の多様な人が参画しやすい防災体制をつくっておくことが望まれます。

【青森県女性の参画による防災力向上事業について…青森県防災危機管理課（TEL 017−734−9088）】

「もしもの時」安心して過ごせる避難所にするためには

1. 避難所の運営組織の各班に必ず女性を入れる（できれば複数）。
2. 物事を決める際には男女を交えた、多様な人たちの話し合い・コミュニケーションを。
3. 役割分担に工夫を。特定の人にだけ負担がかからないように。

それぞれが持っている生活知識や体験を生かしましょう。

災害に備えて日常からできること

東日本大震災以来、「平時にできないことは非常時にはなおさらできない」と言われています。これまで、防災・復興は「成人・男性・健常者」の観点から考えられる傾向にありましたが、日頃から、性別にとらわれず、意見を取り入れ、共に行動していくことが必要です。

いざという時のために、チェックしてみましょう！

☑「自分たちの地域は自分たちで守る」自主防災組織はありますか？

☑誰もが発言しやすい環境ですか？

☑多様な人たちが、まちづくりに参画していますか？

☑女性リーダーはいますか？

一人ひとりの主体性を発揮できる社会であることが災害・復興に強い地域づくりにつながります。

Report

男女共同参画の視点を取り入れた防災研修講師派遣事業

地域における男女共同参画の視点を取り入れた防災体制づくりに向けて、市町村や自治会等から防災研修会の開催要望があった３団体に、当センターの職員を講師として派遣しました。

■青森市原別地域まちづくりを進める会主催「男女共同参画の視点に立った防災研修会」
11/7（土）開催　参加者17名

■コープあおもり五所川原地域「くらしと防災委員会」主催「女性だからできる防災・減災研修会」
11/30（月）開催　参加者19名

■三沢市主催「男女の視点で考える！防災研修会」
12/15（火）開催　参加者29名

令和３年度も引き続き講師派遣事業を実施予定です。詳細は４月頃に青森県男女共同参画センターのホームページでお知らせします。

Information

あおもりおまもり手帳 青森県防災ハンドブック

災害が起きた時にどうやって自分の命を守るのか、今からどうやって災害に備えたらよいのかなどについて分かりやすくまとめた青森県版の防災ハンドブックです。

男女共同参画の視点を取り入れた「安心避難所づくり」ハンドブック

「安心できる避難所づくり」をテーマに、避難所ワークショップを実施して、防災・復興における課題解決に取り組んだ結果を反映したハンドブックです。

男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン

内閣府男女共同参画局は、昨年５月に「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」を公表し、女性の視点を活かした災害対応を促しています。

ガイドラインは、内閣府男女共同参画局ホームページにて、ダウンロードが可能です。

展示「東日本大震災から10年～過去の災害の教訓を生かす～」

令和３年３月にアピオあおもりエントランス及び情報ライブラリー内で「防災と男女共同参画」に関するパネルの展示及び関連図書の展示・貸出を行います。アピオあおもりにご来館の際は、ぜひご覧ください。
また、希望する市町村や団体等に展示パネル及び関連図書のパッケージ貸出も行います。詳細はお問い合わせください。
（アピオあおもり情報ライブラリー　TEL 017－732－1024）